

新潟市口腔保健福祉センター年次報告（概要）
（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

1 利用実績

(1) 急患診療

	診療日数	利用患者数	一日平均患者数
平成31年度通年	79日	1075人	平均 13.6人
平常の休日	52日	496人	平均 9.5人
連休及び1日飛び休日	20日	370人	平均 18.5人
お盆（平日）	3日	63人	平均 21.0人
お盆（休日）	0日	0人	平均 0人
年末	1日	43人	平均 43.0人
年始	3日	103人	平均 34.3人

性別年齢別患者内訳

	男	女	計
6歳未満	44	22	66
6～17歳	61	50	111
18～64歳	367	324	691
65歳以上	104	103	207
計	576	499	1075

(人)

年間利用患者数は1075人で、前年の890人に比較し増加した。一日平均患者数は13.6人で前年の11.9人に比べて増加した。特に、連休及び1日飛び休日は18.5人で、前年の13.7人に比較し大幅に増加した。年齢別内訳は、ほぼ例年通りで19歳～64歳が64%あった。疾病別では、う蝕、脱離、歯周疾患の順が多かった。三次医療機関への紹介数は17件だった。

(2) 特別診療

	診療日数	半日診療回数	利用患者数	半日平均患者数
平成31年度通年	195日	244回	1733人	平均 7.1人

性別年齢別患者内訳	男	女	計
6歳未満	57	5	62
6～17歳	277	79	356
18～64歳	700	438	1138
65歳以上	87	90	177
計	1121	612	1733

(人)

障がい別患者内訳	(人)
知的障害	593
発達障害	529
精神疾患	66
神経難病	14
染色体異常	167
感覚障害	4
認知障害	86
四肢麻痺	267
その他	7

特別診療の年間のべ患者数は1733人で、昨年の1799人と比べて増加し、前年に比べて若干減少した。年齢別内訳は、ほぼ例年通りであった。疾患別のべ患者数は、例年同様にう蝕と歯周疾患がほとんどであった。また、障がい別患者内訳は、知的障がい、発達障がい、

同程度で多く、次いで四肢麻痺の割合が多かった。

往診（摂食嚥下評価）は、対象施設は介護老人保健施設「緑樹苑」・特別養人ホーム「黒崎の里」・特別養護老人ホーム「まっはま園」・特別養護老人ホーム「ばんだい桜園」・介護老人保健施設「白根ヴィラガーデン」の5施設を対象とし、月2回往診を行った。年間のべ往診患者数は77人だった。

2 利用料金収入の実績及び管理経費等の収支状況等

別紙参照

3 総括・自己評価

急患診療、特別診療ともに大きなトラブルはなく業務を行うことができた。

特別診療では、前年度に比べて利用者数が若干減少した。3月は新型コロナウイルス感染を理由にしたキャンセルが10件程度あった。今年度の一次、二次及び三次医療機関への紹介数は、それぞれ6件、0件、8件、合計14件であった。今後も、他医療機関との連携体制の構築を図り、二次医療機関としての役割を果たしていきたい。

往診（摂食嚥下機能評価）は月2回実施し、1回の往診につき2から3回、嚥下内視鏡（VE）を用いた嚥下評価を行っている。また、地域における摂食嚥下障害に対応できる人材を育成することを目的とし、往診時に主担当歯科医師の他に歯科医師の帯同を行っており、今年度は1名の新潟市歯科医師会員が帯同した。また、新潟市歯科医師会員以外に1名の歯科医師が見学を行った。

「高齢者福祉施設・障がい者福祉施設に対する歯科保健事業」の口腔健診・研修事業の実施件数及び実施数は32施設399人で、昨年度の30施設343人とほぼ同程度であった。昨年度から地域活動支援センターに加え、就労継続支援B型事業所を対象施設として追加したが、順調に実施することができており、今後も就労継続支援B型事業所も対象施設としていく予定である。口腔ケア研修事業の実施件数および実施者数は40施設、600人で、例年通り順調に実施することができた。

令和2年1月23日に「新潟市口腔保健福祉センター健診・研修関係業務調整会議」を開催した。今年度は、障がい者福祉施設の方に参加いただき、障がい者福祉施設における現状についての情報交換と、センターの障がい者関連事業の今年度の活動報告ならびに今後の取り組みについて意見交換を行った。令和2年2月13日に「歯科口腔保健検討会議」を開催し、今年度の活動報告と新潟市口腔保健福祉センターの今後についてと歯科口腔保健に関する意見交換を行った。